

順位	氏名（議席）	発言の要旨
18	笹川 朝子（13）	<p>1. 富士川ふれあいホールの利活用について</p> <p>富士川ふれあいホールは、昭和60年に富士川町立中央公民館として開館し、町民の文化活動の拠点として様々に利用されてきましたが、市は、ホールの客席保有量や稼働状況の調査を行った結果、令和4年度に、指定管理期間が終了する令和8年度末でホール機能を廃止するとしています。廃止の理由は、市内に類似施設があり、施設を維持し続けるために多額の経費を要するためです。</p> <p>しかしながら、富士川まちづくり協議会への説明資料に、廃止が決定した後のコロナ禍の影響が大きい令和5年度の利用状況の資料が使われていたことなどから、ホール機能の廃止を決めるに当たって、財政面が前面に出され、旧富士川町民に寄り添った検討はされてなかったのではないかと危惧しています。</p> <p>富士川ふれあいホールは、現在も富士市民だけでなく、市外の方も利用されています。これは、使い勝手がよく、必要とされている施設ということではないでしょうか。ホール機能の廃止は、舞台での練習や発表、鑑賞、観劇などの場がなくなり、多くの方が文化活動の機会を失うことにつながります。</p> <p>現在、ホール機能廃止後の施設の活用方法について、庁内プロジェクトチームを設置して検討していることは承知しています。もっと利用してもらえ施設にしていくべきとの立場で、以下質問します。</p> <p>(1) ホール機能の廃止を決定するに当たり、旧富士川町民への意向調査等は実施されたか。</p> <p>(2) ホール機能の廃止についての住民への説明会が、富士川まちづくり協議会や富士川地区の区長会に対してのみになっていることについての見解を伺う。</p> <p>(3) 地区住民などから要望や意見などは出されているか。また、出された場合はどのような対応をしていくのか。</p> <p>(4) 富士川ふれあいホールの近くには、富士川第一中学校や国指定重要文化財である古谿荘があるが、中学生及び観光客の居場所や休憩場所などが周辺にない。富士川ふれあいホール全館の利活用について、多面的に検討すべきと考えるがいかがか。</p> <p>2. 旧女性活動センターに係る建物及び土地の処分について</p> <p>旧女性活動センターは、旧富士川町が昭和39年に老人福祉センターとして建設し、その後、女性活動センターとして様々な市民活動の場になり、結婚式場としても利用されてきました。現在は、市史関連資料や文化財資料等の倉庫として利用されていますが、建築後60年が経過し、耐震基準を満たさなまま老朽化が進んでいます。</p> <p>現在、この旧女性活動センターの建物と土地を、建物解体とセットで売却するとの計画が示されています。旧女性活動センターは老朽化が進み、近所迷惑になっているので解体は早期にするべきですが、解体とセットで土地も売却するのは問題です。旧女性活動センターは、向かいにカヤぶき屋根の稲葉家住宅（富士川民俗資料館）があるだけでなく、岩淵の一里塚や国登録有形文化財である小休本陣常盤家住宅等がある富士川歴史街道に近い場所にあります。また、富士市街や富士川下流域が一望でき、富士山の景観が素晴らしいところでもあります。このように素晴らしい立地であります。稲葉家住宅の前の駐車場のほかには、周辺に休憩する場所がありません。解体を機</p>

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨
18	笹川 朝子（13）	<p>に、歴史的な視点での有効活用をすべきとの立場から、以下質問します。</p> <p>(1) 建物及び土地の売却を決めた理由は何か。</p> <p>(2) 地域への説明はどのようになっているか。また、要望や意見などを聞くべきではないか。</p> <p>(3) ふじかわの歴史を踏まえ、稲葉家住宅等と合わせた利活用を検討すべきと考えるがいかがか。</p>